



©IWGA



もうひとつの
スポーツの祭典、
もうひとつの
熱戦の舞台。

- Aikido
- Air Sports
- Archery
- Baseball-Softball
- Billiard
- Bodybuilding
- Boules Sports
- Bowling
- Canoe
- Casting
- Dance Sport
- Fistball
- Floorball
- Flying Disc
- Gymnastics
- Handball
- Hockey
- Ju-Jitsu
- Karate
- Kickboxing
- Korfball
- Lacrosse
- Lifesaving
- Muaythai
- Netball
- Orienteering
- Powerlifting
- Racquetball
- Roller Sports
- Rugby
- Sambo
- Sport Climbing
- Squash
- Sumo
- Surfing
- Tug of War
- Underwater Sports
- Waterski & Wakeboard
- Wushu

オリンピックと連携する国際総合競技大会

THE WORLD GAMES



The World Games
2022 BIRMINGHAM, USA
『第11回ワールドゲームズ』
2022.7.7-7.17
バーミングハム大会
アメリカ合衆国



特定非営利活動法人 日本ワールドゲームズ協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階 笹川スポーツ財団内
TEL:03-6229-5300 FAX:03-6229-5340 E-MAIL:info@jwga.jp

<https://www.jwga.jp/>

THE WORLD GAMES

「オリンピックに採用されていない種目」の国際総合競技大会

ワールドゲームズとは「第2のオリンピック」とも言われる国際総合競技大会です。国際ワールドゲームズ協会 (IWGA: International World Games Association) 主催、国際オリンピック委員会 (IOC) 後援で4年に一度、夏季オリンピック・パラリンピック競技大会の翌年に開催されます。実施される競技種目は、IWGA加盟競技団体からの申請をもとにIWGA理事会 (Executive Committee) が、オリンピック競技大会に採用されてない競技種目で、開催地の既存競技施設で実施可能であること、世界的に普及しており世界選手権大会が定期的に行われていることなどを基本条件に大会開催の3年前までに決定します。

IWGAへの加盟条件は、IOC承認競技団体が非オリンピック競技種目の世界選手権大会を統括している夏季・冬季オリンピック競技団体であることで、2015年時点で既にIWGAに加盟している団体は例外とされています。

今までに、ワールドゲームズ競技種目の中から8競技種目（バドミントン、野球、ソフトボール、テコンドー、ビーチバレーボール、女子ウエイトリフティング、トライアスロン、7人制ラグビー）がオリンピックに採用されており、2020年東京オリンピックの追加競技種目となった5競技（野球・ソフトボール、空手、ローラースポーツ<スケートボード>、スポーツクライミング、サーフィン）はすべてIWGA加盟競技です。このようにワールドゲームズはオリンピックと密接に関係しています。

4年毎に開催されるワールドゲームズ大会は、世界最高レベルという基準で各競技の国際スポーツ連盟(IF)によって選ばれた選手たちにより、約10日間にわたって熱戦が繰り広げられます。大会の特徴は、施設建設に巨額の費用を要するオリンピックとは異なり、選手村を作らず選手は既存の宿泊施設に競技別に宿泊します。また、競技は既存の施設で開催できる競技種目のみで実施するため、大変少ない費用で開催できることです。

表彰式では金、銀、銅のメダル授与、国旗掲揚は行われますが、行き過ぎた国威発揚や勝利偏重主義は抑えられていることも特徴のひとつです。また大会期間中、大会参加者が一堂に集える『アスリートナイト』を開催し、参加者の交流を深める機会を設けています。

ワールドゲームズの変遷

オリンピック競技以外の国際スポーツ連盟（IF）の多くは、その競技がオリンピックの公式プログラムに新たに加わることを望んでいますが、オリンピックは回を重ねるごとに規模が拡大し、新たな競技種目を加えることが非常に困難な状況にあります。そこで1970年代に非五輪競技の中からオリンピックに匹敵する世界的な大会を開催し、人々やメディアの関心を集めようという動きが出てきました。その動きは1980年5月21日に韓国のソウルにおいてオリンピック競技に入っていない12のIFにより「ワールドゲームズ協議会」（WGC）が設立され具体化しました。第1回大会は1981年にアメリカのサンタクララで開催され、WGCは、国際ワールドゲームズ協会（IWGA）と改称。その後、回を重ね、第10回大会は2017年にポーランド共和国のヴロツワフ市で開催され、参加国数は過去最多の102カ国・地域となりました。大会には毎回、日本からも多くの選手が参加しています。2001年の第6回大会はアジア初の大会として秋田県で開催し、NHK総合・Eテレ、BS1（大会期間中毎日50分間）で全国放送された他、海外130カ国に配信されるなど、国内外から大変注目されました。



IWGA加盟団体競技（英語競技名アルファベット順）

 合気道	 ハンドボール ※1	 ラグビー ※1
 エアースポーツ	 ホッケー ※1	 サンボ ※3
 アーチェリー ※1	 柔術	 ソフトボール ※2
 ビリヤード	 空手 ※2	 スポーツクライミング ※2
 ボディビルディング	 キックボクシング	 スカッシュ
 ブールスポーツ	 コーフボール	 相撲
 ボウリング	 ラクロス	 サーフィン ※2
 カヌー ※1	 ライフセービング	 綱引
 キャスティング	 ムエタイ	 水中スポーツ
 ダンススポーツ	 ネットボール	 水上スキー・ウエイクボード
 フィストボール	 オリエンテーリング	 武術 ※3
 フロアボール	 パワーリフティング	
 フライングディスク	 ラケットボール	
 体操 ※1	 ローラースポーツ ※2	

2021年9月現在 39競技
 (※1) 夏季オリンピック競技
 (※2) 2020五輪追加競技
 (※3) 2021年承認競技

※ワールドゲームズは、オリンピック競技であっても、その「種目」がオリンピックに採用されていなければ、4年に一度のワールドゲームズ大会でその種目を実施することが可能となっています。また、その競技団体はIWGAに加盟することができます。



国際ワールドゲームズ協会

International World Games Association (IWGA)

国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) は、国際スポーツ団体連合 (GAISF: Global Association of International Sports Federations) の加盟団体の一つで、4年に一度ワールドゲームズ大会を開催するほか、IWGA加盟団体の競技種目の普及・発展のための活動を行っています。加盟条件は、IOC承認競技団体が非オリンピック競技種目の世界選手権大会を統括している夏季・冬季オリンピック競技団体であることで、2015年時点で既にIWGAに加盟している団体は例外とされています。加盟申請はIWGA理事会・年次総会で審議され可否が決定されます。2017年総会には、バスケットボール、自転車、近代五種、レスリング、トライアスロンの夏季オリンピック競技団体が非オリンピック種目をワールドゲームズに加えるために加盟申請をしましたが、すべて否決されました。オリンピックとの違いを明確にするために、1種目でもオリンピックに採用されている競技は加盟できなかったIWGA設立時のルールを踏襲する結果となりました。会長、副会長、財務担当理事、理事は、4年毎に加盟団体が推薦した候補者から総会での選挙で選出されますが、2014～2017年はGAISF元理事である師岡文男（フライングディスク）が日本人で初めて選出されました。2018～2022年の理事会メンバーはヨーロッパ人8名、アメリカ人1名で構成されており、今後、アジア、アフリカ、オセアニアから理事が選出されることが望まれます。

会 長	José Perurena López	ホセ・ベルレナ・ロペス（スペイン）	カヌー ※IOC委員
副 会 長	Max Bishop	マックス・ビショップ（スイス）	エアースポーツ
専務理事（CEO）	Joachim Gossow	ヨーヒム・ゴッソウ（ドイツ）	ワールドゲームズ2005 スポーツディレクター
財 務 担 当 理 事	Lukas Hinder	ルーカス・ヒンダー（スイス）	ダンススポーツ
理 事	Anna Arzhanova	アンナ・アルツァノヴァ（ロシア）	水中スポーツ
	Volker Bernardi	ヴォルカー・ベルナルディ（ドイツ）	フライングディスク
	Antonio Espinos	アントニオ・エスピノス（スペイン）	空手
	Jan Fransoo	ヤン・フランソー（オランダ）	コーフボール
名 誉 会 長	Ron Froehlich	ロン・フローリッヒ（アメリカ）	体操 ※前会長
理事任期：2018年総会～2022年総会（4年制）			

IWGA Headquarters (本部) Avenue de la Gare 12 1003 Lausanne, Switzerland
Phone +41 (0)21 601 03 21 **Email** office@theworldgames.org **URL** www.theworldgames.org





IOCとの関係

ワールドゲームズは、第3回大会(1989年)から国際オリンピック委員会(IOC)の後援を受けています。秋田大会開催前年の2000年10月には、IOCが今後恒久的にワールドゲームズを支援する旨の覚書の調印がIOCとIWGAの間で行われました。この覚書により、IOCは「ドーピングテストの費用を負担する」「知識・技術面での支援・援助を提供する」「各国オリンピック委員会にワールドゲームズの参加者を支援するよう要請する」などの支援を恒久的に行うことになりました。

2014年12月、モナコで開催されたIOC臨時総会において、中長期改革案「オリンピック・アジェンダ2020」の40提言が全会一致で承認されましたが、その提言6-1には、「IOCとIWGAはスポーツプログラムの構成及びそれぞれの評価に関して緊密に協力する」と記されており、IWGAとIOCの関係はますます強化される方向にあります。

2015年10月22日には、IOC会長名で206の各国・地域オリンピック委員会会長宛に2017年ワールドゲームズへの協力を要請する文書が送られ、10月30日のANOC(国内オリンピック委員会連合)総会でIWGA会長が協力要請スピーチを行っています。その翌年、2016年4月19日には、2000年10月に締結した覚書に記された連携内容をさらに強化する改訂版覚書の締結がローザンヌで行われています。

GAISF (国際スポーツ団体連合)

GAISF(Global Association of International Sports Federations: 旧名 SportAccord)は、1967年に26の国際スポーツ連盟(IF)によってローザンヌで設立されたIOC承認団体で、2020年7月現在、3大陸40カ国以上(冬季競技は2大陸25カ国以上)に協会を持つ95のIFとパラリンピック、ワールドゲームズ、ワールドマスタースゲームズ、ユニバーシアード、スペシャルオリンピックス等の国際総合競技大会主催者など20の国際スポーツ関係団体、計115の国際スポーツ関係団体がスポーツの普及、オリンピック・ムーブメントの推進、アンチ・ドーピングの徹底、情報の共有、協力協調を目的に加盟する世界最大のスポーツ組織です。GAISF加盟団体であることは、事実上IOC承認団体になるための基礎条件になっています。

2010年、設立時の名称GAISF(General Association of International Sports Federations)を、強力なスポンサーであったモナコ公国との関係を清算するために、2003年から総合国際会議名として使われていたSportAccordに改名されましたが、2015年4月20日に開催された総会においてビゼール会長(国際柔道連盟会長)がIOCを批判する発言をしたことから脱退する団体が相次ぎ、ビゼール氏は会長を辞



任しました。同年11月11日にローザンヌで開催された臨時総会において団体の立て直しをはかり、IOCとの関係修復にも成功。2017年11月、IOCと連携の覚書を締結、団体名をGAISF(Global Association of International Sports Federations)に改名しロゴも一新しています。

【主要事業】

- IF ForumとGAISF総会の開催
- SportAccord Convention開催協力

● 各種国際総合競技大会のプロデュース

ワールドコンバットゲームズ(2022年から4年毎に開催)、ワールドマインドゲームズ(毎年開催)、ワールドアーバンゲームズ(2019年から2年毎に開催)、ANOCワールドビーチゲームズ(2019年から2年毎に開催)

● アンチ・ドーピングの支援

● 広報推進事業

<スポーツアコード コンベンション>

SportAccord は、SportAccord Conventionを開催するための組織としてGAISFと別組織になりました。6日間の会期中、IOC理事会(2003～2015年)の他、GAISF・オリンピック夏季大会競技団体連合(ASOIF)・オリンピック冬季大会競技団体連合(AIOWF)・IOC承認国際競技団体連合(ARISF)・IOC非承認国際競技団体連合(AIMS)・国際ワールドゲームズ協会(IWGA)・国際マスタースゲームズ協会(IMGA)・国際マインドスポーツ協会(IMSA)の総会や各種セミナー、展示会等が開催されます。

IOCとの連携の覚書を締結
(2017年11月)



IWGA加盟団体の所属IF連合組織

	IWGA加盟団体競技		夏季オリンピック	IOC承認	非IOC承認
1	Aikido	合気道			●
2	Air Sports	エアースポーツ		●	
3	Archery	アーチェリー	●		
4	Baseball-Softball	野球ソフトボール	(●)	●	
5	Billiard	ビリヤード		●	
6	Bodybuilding	ボディビルディング			●
7	Boules Sports	ブルスポーツ		●	
8	Bowling	ボウリング		●	
9	Canoe	カヌー	●		
10	Casting	キャストिंगスポーツ			●
11	Dance Sport	ダンススポーツ		●	
12	Fistball	フィストボール			●
13	Floorball	フロアーボール		●	
14	Flying Disc	フライングディスク	●	●	
15	Gymnastics	体操	●		
16	Handball	ハンドボール	●		
17	Hockey	ホッケー			
18	Ju-Jitsu	柔術			●
19	Karate	空手	(●)	●	
20	Kickboxing	キックボクシング		●	
21	Korfball	コーフボール		●	
22	Lacrosse	ラクロス		●	
23	LifeSaving	ライフセービング		●	
24	Muaythai	ムエタイ		●	
25	Netball	ネットボール		●	
26	Orienteering	オリエンテーリング		●	
27	Powerlifting	パワーリフティング			●
28	Racquetball	ラケットボール		●	
29	Roller Sports	ローラースポーツ	(●)	●	
30	Rugby	ラグビー	●		
31	Sambo	サンボ		●	
32	Sport Climbing	スポーツクライミング	(●)	●	
33	Squash	スカッシュ		●	
34	Sumo	相撲		●	
35	Surfing	サーフィン	(●)	●	
36	Tug of War	綱引		●	
37	Underwater Sports	水中スポーツ		●	
38	Waterski & Wakeboard	水上スキー・ウエイクボード		●	
39	Wushu	武術		●	
			6+(5)	27	6

(●) 東京2020オリンピック・パラリンピック追加競技

IF連合組織

- ASOIF (Association of Summer Olympic International Federations) オリンピック夏季大会競技団体連合 [28 IF加盟]
- AIOWF (Association of International Olympic Winter Sports Federations) オリンピック冬季大会競技団体連合 [7 IF加盟]
- ARISF (Association of Recognised International Sports Federations) IOC承認国際競技団体連合 [42 IF加盟]
- AIMS (Alliance of Independent Members of SportAccord) IOC非承認国際競技団体連合 [18 IF加盟]

合気道 Aikido



古流柔術の一派からおこった武術の一つで、人間の肉面的充実を図ることを主眼としたスポーツです。間合いを活かして瞬時に相手の死角に入る入身と、身体を中心をしっかりさせて用いる円転のさばきをもとに成り立っており、自ら攻撃するのではなく自らに加えられる暴力を制するものとして、他武道に比べて精神性が重視されています。

エアースポーツ Air Sports



航空機からパラシュートを背負い降下中の技などを競い合うスポーツ。上空約1,000mから降下して着地点の正確性を競う「アクキュレーション」。直径3mの目標物中心にある30cmのディスク真ん中の500円硬貨程のデッドセンターを目指します。その他、キャノピーパイロティングやフリースタイル、フォーメーションなどがあります。

アーチェリー (フィールド) ※1 Archery



標的は直径20cm、40cm、60cm、80cmの4種類の大きさで、弓の種類により「ペアボウ」「リカーブ」「コンパウンド」の3部門に分けられ、距離が表示されているマークドコースと表示されていないアンマークドコースを3射ずつ行射し、ゴルフのようにラウンドして、最短5mから最長60mの間で設置された的を射て、的に当たった矢の得点を競います。

野球-ソフトボール ※2 Baseball-Softball



野球とソフトボールは、IWGA創立時には別団体で、オリンピック公式競技の期間IWGAを退会しましたが、2012年ロンドンオリンピックから公式競技不採用になったため、2013年に合併してIWGAに再加盟しました。2022年第11回大会にはソフトボール女子が公式種目に復帰します。

ビリヤード Billiard



球を投げたり打ったりするスポーツは数多くありますが、キュースティックを使って球を「撞く」のはビリヤードだけです。そのため現在ではキュー・スポーツとも呼ばれており、幅広い年齢層に親しまれています。競技は大きく分けて「キャロム」「プール(ポケット)」「スヌーカー」の3種目があります。

ボディビルディング Bodybuilding



各種スポーツの基礎体力作り、生涯スポーツ、競技スポーツの3つの要素を含んだスポーツです。体の筋肉を鍛え抜くことによって、芸術作品のような肉体の逞しさと美しさを築きあげ、その見事さを披露します。大会では究極に近いまで鍛え上げた筋肉を各ポーズで披露し、筋肉のバランスや表現能力が審査されます。

ブルスポーツ Boules Sports



ワールドゲームズでは「スポールブル」と「ペタンク」が実施されます。スポールブル種目としては、コート内を走りながら、自分のボールを目標球に投げ当てるティールゲームが行われます。ペタンクは平坦なコートで目標球に金属球を近づけ合う球技で、ときには邪魔な相手球を弾き出して得点を競います。

ボウリング Bowling



ワールドゲームズでは日本でもなじみの深い「テンピンボウリング」が行われます。10本のピンを目標けてボールを転がし、倒れたピンの本数でスコアを競うスポーツです。1ゲーム10フレームで構成され、1フレームに2回まで投げることができます。(※第10フレームは3回まで) 種目は男女別で「ダブルス」「シングルス」が行われます。

カヌー ※1 Canoe



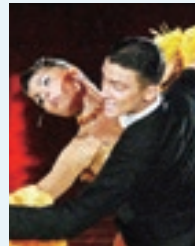
カヌーポロは1人用カヌーに乗って行うチーム制の球技です。水球やバスケットボールに似た水上のスポーツでオールを巧みに使い、激しくボールを奪い合うことから水上の格闘技と呼ばれています。1チーム5人で構成され、36m×24mのコートで得点を競います。水上2mの高さにゴールが設置され、ゴールキーパーは手にしているパドルでゴールを守ります。

キャストイング Casting



競技は大きく2つに分類されており、釣りに使う竿やリールを使って、重りや毛ばりをどれだけ正確に投げられるかを競う「アクキュレーション」、どれだけ速くに投げられるかを競う「ディスタンス」があります。もともとは釣りに生み出されたスポーツですが、より競技性を高めるために大会は陸上で行われています。

ダンススポーツ Dance Sport



現在、映画やテレビなどを通して、愛好者が急増中のスポーツです。初心者から楽しめますが、上級者になるためには、高度の技術と肉体的鍛錬、長期の指導が要求されます。種目としては、「スタンダード」、「ラテン」や「ブレイクダンス」、「ロックンロール」、「サルサ」、「車いすダンス」、「カントリー＆ラインダンス」があります。

フィストボール Fistball



バレーボールの前身といわれており、5人対5人で芝生のコート(50m×20m)で高さ2mのストリング(ひも)をはさみ、得点を競います。相手が3打以内で返球できない場合は得点1となり、1セット20点、3セットマッチで2セット取れば勝ちです。ボールを片手で打つこと、1バウンドまではOKというところが特徴です。

フロアボール Floorball



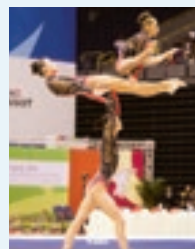
ボードで囲まれた40m×20mの室内リンクで行われるチーム制の球技です。1チーム、1人のゴールキーパーと5人のフィールド・プレイヤーで構成され、穴のあいたプラスチック製のボールを相手チームのゴールに入れて得点を競います。試合時間は1ピリオド20分間で3ピリオド行われます。2014年からワールドゲームズの競技種目となりました。

フライングディスク Flying Disc



プラスチック製ディスクを使う12種目の総称で、IOC・IPC承認競技です。2001年秋田WG以来、7人でディスクをパスで運び、敵陣エンドゾーン内でディスクキャッチすると得点となるセルフジャッジ制団体種目「アルティメット」(中学校学習指導要領掲載)が公式種目です。(TWG2001年銅・2009年銀メダル獲得)

体操 ※1 Gymnastics



新体操、アクロバット体操、エアロビック、パルクール、トランポリン、タンブリングの6種目を実施されます。技の難易度や美しさなどを競います。新体操はオリンピックでは団体と個人総合が行われますが、ワールドゲームズでは個人種目別で行われ、トランポリンはワールドゲームズでは2人で行うシンクロナイズドが行われます。

ハンドボール (ビーチハンドボール) ※1 Handball



浜辺で行うハンドボールです。屋内でのハンドボールとはルールが異なり、砂浜ならではのプレーが魅力です。27m×12mの砂浜のコートで、前半・後半10分、4人対4人で得点を競うスポーツです。ヨーロッパ、中東、南米で盛んに行われており、ユースオリンピックの公式競技としても採用されています。

ホッケー (インドア) ※1 Hockey



インドアホッケーは、ゴールキーパー1名とフィールドプレイヤー5名の計6名で構成され、体育館などの屋内で行われます。コートとゴールの大きさはフットサルと同じですが、サイドラインに木の角材が使われていることが特徴です。2005年ワールドゲームズデュイスブルク大会では公開競技として実施されました。

柔術 Ju-Jitsu



日本古来の徒手や短い武器を使った攻防の技法を中心としたスポーツです。柔術関連の流派は500ほどありますが、唯一競技として国際ルールに則り、試合を実施しているのがこの柔術競技で、突き、蹴り、関節技、投げ技などで勝敗を競う格闘系と、2人1組で決められた攻撃の形に対する防御の形を競う演武系があります。

空手 ※2 Karate



空手競技は「形」と「組手」の2つの競技があります。形は、相手の動きを想定して構成され創られたものを演武し正確さ、力強さ、スピード、リズム、バランス等を競います。組手は、2人の選手が互いに目標部位に突き・蹴り・打ち等の技を使い、攻防を競います。相手の攻撃部位に当てず、直前でコントロールし、技を正確に決めるところに醍醐味があります。

キックボクシング Kickboxing



ローキックや肘打ち、ボディ・顔面への膝蹴りが認められているボクシングです。試合時間は3分1ラウンドで1分のインターバルを挟み3～5ラウンド行われ、相手をダウンさせ10カウントを奪うとノックアウト勝ち、最終ラウンドまで両者がノックアウトされなかった場合は判定で勝敗が決まります。2014年度よりワールドゲームズ競技種目となりました。

コーフボール



「コーフ」とはオランダ語で「バスケット」を意味し、リング状のバスケットにボールを投げ入れて得点を競います。1チーム8人で男女混合、30分ハーフで行われます。シュートはどこからでも打つことができ、ドリブルが禁止のためパス中心のゲーム展開になります。また異性をマークしたり接触プレーも禁止されています。

ラククロス



棒の先に網のついたスティック(クロス)を使い、テニスボール大のゴム製のボールを180cm四方のゴールまで運んで得点を競うチーム制の球技です。サッカーと同じくらいのグラウンドで行われ、女子は12人対12人、25分×2の前後半制、男子は10人対10人、20分×4のクォーター制で行われます。2014年度よりワールドゲームズ競技種目となりました。

ライフセービング



ライフセービング競技は事故が起きたときに必要な救助技術を競うスポーツで、自らの楽しみや体力向上などの目的ばかりでなく、実際の救助活動で「命を守る」という社会的な目的のために行うスポーツです。種目はプール種目と、サーフ(海)種目、ビーチ種目があります。

ムエタイ



キックボクシングと似たタイ発祥のスポーツです。キックボクシングよりも蹴りが多いことが特徴です。3分1ラウンドで2分のインターバルを挟み通常5ラウンド行われ、相手をダウンさせ10カウントを奪うとノックアウト勝ち、最終ラウンドまで両者がノックアウトされなかった場合は判定で勝敗が決められます。2014年度よりワールドゲームズ競技種目となりました。

ネットボール



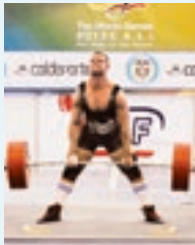
バスケットボールを女性用のルールにアレンジしたものが始まりといわれており、コートはセンターサードと2つのゴールサードに分けられます。ゲームは4クォーター制でプレイヤーは7名です。コート内の行動範囲がポジションごとに決められており、この範囲を出るとボールを持つ持たないにかかわらず、オフサイドの反則となります。

オリエンテーリング



オリエンテーリングとはドイツ語で「方向を知る」と「走る」を意味する合成語です。地図とコンパスを用いて山野の各所に設定された各地点を通過してゴールまでの速さを競うスポーツで、地図を読む力と脚力が必要とされます。競技の公正を守るため、直前にコースが設置されます。山野を猛スピードで駆ける非常にハードなスポーツです。

パワーリフティング



人間の力強さを培うためにさまざまな体力、筋力トレーニング方法が考案されましたが、その成果を試す手段として競技化されたものが始まりといわれています。基本的運動要素「立つ・押す・引く」を「スクワット」(脚力)、「ベンチプレス」(腕力)、「デッドリフト」(背筋力)という3つの動作におきかえて、その力の極限を競うスポーツです。

ラケットボール



2人もしくは4人の選手が交互にボールを壁に打ち合う競技です。スカッシュと似ていますがラケットボールは壁・床・天井の6面を使うことができます。試合は15-15-11点の3ゲームマッチで行われます。天井や壁を上手く使い、ボールの方向や角度、スピード、スピンのによって様々な球筋を繰り出す事もでき、運動能力とともに頭脳プレーも要求されます。

ローラースポーツ※2



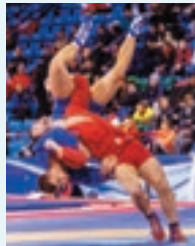
ワールドゲームズでは、タイムやポイントを競う「インラインスピード」、1チーム5人で得点を競う「ローラーインラインホッケー」、ジャンプやスピン等の技術の正確さや美を競う「アーティスティック」の3種目を実施します。

ラグビー※1



各15人の2チームに分かれて楕円形のボールを奪い合い、敵陣のゴールを目指すスポーツです。『持つて走る』『放る』『蹴る』のいずれかでボールを運びます。選手たちは互いの体をぶつけ合い、ボールを巡って激しい攻防を繰り返します。ボールを前に放ってはならず、手でパスする際は、自分より後ろにいるプレイヤーにしかできないのも、大きな特徴です。

サンボ※3



柔道とレスリングを合わせたようなスポーツで、投げ技や関節技等で勝敗を競います。投げ技による一本勝ちや押さえ込みによるポイント加算などルール面でも柔道と共通する部分も多く、大きく異なる点は、膝やアキレス腱、股関節等の下半身に対しても関節技の使用が認められている点と締め技がない点です。

スポーツクライミング※2



人工壁にホールドと呼ばれる突起物を設置し、手足で保持して登るスポーツです。12m以上の壁に設けられたルートの到達高度を競う「リード」、15mの壁にセットされた同一の2本のルートを隣合わせで登る速さを競う「スピード」、3～5mの壁に複数の課題が組まれ、その課題の完登数を競う「ボルダリング」があります。

スカッシュ



四方を壁に囲まれたコートの中で、小さなゴムボールをワンバウンド以内で交互に打ち合う立体ビリヤードのようなラケット競技。前後左右の壁を使って瞬時にショットの角度や方向を変えることができるため、頭脳的でスピード感溢れるプレーが楽しめます。試合は1ゲーム11点先取。10-10になったら2点差まで継続。5ゲーム又は3ゲームマッチで行われます。

相撲



相撲は、土俵に上がってから立合いに至るまでに定められた礼法を遵守し、まわし以外は身に寸鉄も帯びず、正々堂々と戦うことを理念としています。狭い土俵の中で相手を投げたり、土俵の外へ出したりするなど勝負の判定が極めて単純で、しかも短時間で勝負が決する競技です。

サーフィン※2



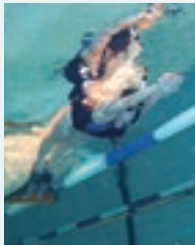
ウォータースポーツの一つで、サーフボードに立ち、波が作り出す斜面を滑走します。原則として一つの波に一人のサーファーと決められており、波がブレイクする(波が崩れる)ピークに一番近いサーファーが波に乗る優先権があります。サーフィンは採点競技で、多くの技ができる波を選び、スピードにのると高得点につながります。

綱引



1チーム8人の体重別クラスで、アウトドアおよびインドアで行われます。時間制限はなく、2つのチームが1本の綱を両側から引き合って、4mの距離を引ききった方が勝ちですが、体力よりもチームワークが重要で、ロープを通してさまざまな駆け引きが展開されます。古くは五穀豊穡を占う儀式としても行われていました。

水中スポーツ



フィンスイミングは、イルカの尾鰭に似た1枚の大きなモノフィンを装着し、水中をウェービングして50mを無呼吸で泳ぎタイムを競うアプニア、モノフィンとセンタースノーケルで呼吸し水面を泳ぐサーフィス(100m、200m、400m)、2枚フィンとスノーケルを装着して泳ぐビーフィン(50m、100m)と4×100mサーフィスリレーが実施されています。

水上スキー・ウエイクボード



水上スキーは競技としてジグザグに設定されたブイをクリアしていく「スラローム」、豪快に空中を飛ぶ「ジャンプ」、演技を競う「トリック」が行われます。その他、スキーを履かず裸足で水上を滑る「ペアフット」や、1枚板に横乗りする「ウエイクボード」、「ウエイクサーフィン」という競技があります。

武術※3



数千年の歴史をもつ中国武術には数多くの武術の流派や種類があり、現在では競技スポーツとして、「武術」の中国語の発音「WUSHU(ウーシュー)」の名称で国際的に普及しています。格闘形式の「対抗性競技」と、一定の動作を単独で演武し、技術水準を評価する「演武競技」の2種類があります。

ワールドゲームズ競技の
動画専門Web

THE WORLD
GAMES CHANNEL












様々な映像を通じて、
ワールドゲームズ競技を
紹介しています。

channel.theworldgames.org



公式・公開競技の変遷

*体操競技は種目名で記載

開催年	1981 第1回	1985 第2回	1989 第3回	1993 第4回	1997 第5回	2001 第6回	2005 第7回	2009 第8回	2013 第9回	2017 第10回	2022 第11回
開催地	アメリカ サンタクララ 	イギリス ロンドン 	旧西ドイツ カールスルーエ 	オランダ ハーグ 	フィンランド ラハティ 	日本 秋田 	ドイツ デュイスブルク 	チャイニーズタイペイ 高雄 	コロンビア カリ 	ポーランド ヴロツワフ 	アメリカ バーミングハム 
参加選手数	1,265名	1,550名	1,965名	2,275名	1,725名	2,193名	3,205名	2,908名	2,929名	3,214名	—
参加国・地域数	9	57	49	49	75	93	93	84	98	102	—
公式競技	15競技	20競技	17競技	21競技	23競技	22競技	26競技	26競技	26競技	27競技	30競技
エアースポーツ											○
アーチェリー (フィールドアーチェリー)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
バドミントン	●										
野球	●										
ソフトボール	●	●									○
ビーチバレーボール					●						
ビリヤード						●		●		●	○
ボディビルディング	●	●	●	●	●	●	●	●			
フールスポーツ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ボウリング	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
カヌー (カヌーボロ)							●	●	●	●	○
キャスティング	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ダンススポーツ					●	●	●	●	●	●	○
フィストボール		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
フロアボール									●	●	○
フライングディスク						●	●	●	●	●	○
アクロバット体操*				(●)		(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(○)
エアロビック*					(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(○)
バルクール*											(○)
新体操種目別*						(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(○)
トランボリン*	●	●	●	●	●	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(○)
タンブリング*	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(○)
ハンドボール (ビーチハンドボール)									●	●	○
柔術					●	●	●	●	●	●	○
空手	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
キックボクシング					●	●	●	●	●	●	○
コーフボール		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ラクロス					●					●	○
ライフセービング		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ムエタイ										●	○
ネットボール		●	●	●	●						
オリエンテーリング						●	●	●	●	●	○
パワーリフティング	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ラケットボール	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ローラースポーツ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ラグビー (7人制)						●	●	●	●		
サンボ		●		●							
スポーツクライミング							●	●	●	●	○
スカッシュ					●		●	●	●	●	○
相撲							●	●	●	●	○
テコンドー	●	●	●	●							
トライアスロン				●							
綱引	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
水中スポーツ (フィンスイミング)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
水上スキー・ウエイクボード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ウエイトリフティング (女子)				●	●		●	●	●	●	
公開競技	なし	なし	3競技	4競技	5競技	5競技	6競技	5競技	4競技	4競技	5競技
合気道			●	●	●	●	●				
アメリカンフットボール (フラッグフットボール)			●				●			●	○
バーンゴルフ			●								
ボールリヨネーズ				●	●						
カヌー (カヌーマラソン)									●		
ドラゴンボート							●	●			
馬術 (ポルティン)				●							
フロアボール					●						
ゲートボール						●		●			
ハンドボール (ビーチハンドボール)						●	●	●			
インドアホッケー							●				
インドアローイング										●	
キックボクシング										●	
ラクロス男子											○
ミリタリーペンタスロン					●						
モーターサイクリング							●				
ベサバロ					●						
ソフトボール								●	●		
スピードウェイ										●	
相撲						●					
チェックボール								●			
トライアスロン (デュアスロン)						●			●		○
綱引 (女子)				●		●					
水上スキー (ベアフット)				●							
車椅子ラグビー											○
武術								●	●		○

●公開競技はIWGAと開催都市で決定されます。開催都市の国や地域で盛んなスポーツや伝統スポーツなどが実施されます
* () 体操競技6種目は種目名で掲載 (トランボリンは1999年まで単独競技IFで、タンブリングはその種目の1つ)

ワールドゲームズって？

世界のトップアスリートによる
国際総合競技大会です

世界最高レベルのアスリートが競い合う国際総合競技大会です。国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) 主催、国際オリンピック委員会 (IOC) 後援により、公式・公開競技が実施され、日頃なじみ深いスポーツから目新しいスポーツまで、約10日間、熱戦が繰り広げられます。これまでに10回、世界10の都市で開催されました。



代表選手は
どうやって選ばれるの？

国際スポーツ連盟が
各国競技団体に参加要請します

世界最高レベルの選手という基準で、各競技の国際スポーツ連盟 (IF) が、参加選手を検討し、各国の競技団体 (NF) に選手の派遣を要請することによって、代表選手が決定します。



次の大会 (2022年) の
実施競技と日本代表選手は？

実施競技は35競技。代表選手は
2021年秋頃から順次決定予定

2022年に開催のアメリカ・バーミングハム大会の実施競技は35競技の予定です。実施予定競技は、P17をご覧ください。代表選手は、各競技の国際スポーツ連盟 (IF) からの要請を受け、2021年秋頃から順次決定されます。



どんな競技が
競技種目に選ばれるの？

オリンピックに採用されていない
競技種目です

- 国際ワールドゲームズ協会加盟の競技の中で、オリンピックに採用されていない競技種目
 - 開催地の既存競技施設で実施可能であること。
 - 世界的に普及しており世界選手権大会が定期的に行われていること。
- などを基本条件に大会開催の3年前までに決定します。

オリンピック競技との
入れ替えはあるの？

あります

綱引はかつてはオリンピック競技種目でした。また、バドミントン、トライアスロン、テコンドーなど8競技種目は、ワールドゲームズからオリンピックに採用されました。ワールドゲームズは第3回大会以来、IOCによる後援を受け、さまざまな支援を受けています。

開催都市はどうやって決めるの？

競技施設が充実していることが
決め手です

原則として「既存の施設を利用して競技を行える」または「大会の開催が決定した時点で施設建設を計画中で、大会開催までに完成する施設を利用して競技を行える」ことが条件となります。競技施設の状況以外にも、経済状況や治安、交通事情、宿泊収容規模など総合的な観点から判断されます。

詳しくはホームページをご覧ください。 <https://www.jwga.jp/worldgames/qa.html>

第6回ワールドゲームズは秋田県で開催 (2001年)

※2021年は20周年



青空のもと、開会式には1,600人の選手・役員と11,507人の観客が集まりました



1994年10月IWGAロン・フローリック会長 (当時) からワールドゲームズの日本開催を打診されたJWGA師岡文男理事は、ミネソタ州立大学秋田校諸星裕学長の協力を得て秋田県の大会招致活動スタートに貢献。JWGAの支援のもと、秋田県は1996年のIWGA総会で第6回ワールドゲームズ (2001年) 開催地に選ばれました。秋田県は民間企業、民間人を中心として、(財) 秋田ワールドゲームズ2001組織委員会 (AOC) を設立、県が全面的にバックアップすることで準備に入りました。アジア地域としては初となる秋田大会は、2001年8月16日～26日の11日間にわたって行わ

れ、93の国・地域から2,193名の選手が参加しました。県内8市町村・21会場の史上初の広域開催で、22の公式競技と5の公開競技を実施し、観客数は30万人を記録しました。大会の様子は、NHKがホスト放送局となり20時間放送され、海外133カ国に映像が流れました。大会経費は22億円で済み、の残余金2億円を基に「あきたワールドゲームズ基金」が設立され、秋田県内への国際大会招致に役立てられました。





2017年ヴロツワフ大会	
【開催時期】	2017年7月20日～30日 (11日間)
【開催場所】	ポーランド共和国 ヴロツワフ市
【人口】	64万人 国内4番目に大きな都市 欧州文化首都 (2016年) 欧州サッカー大会開催 (2012年)
【競 技 数】	公式27競技、公開4競技
【参加国・地域】	102
【選 手 数】	3,214人
【観 客 数】	163,355人
【ポランティア数】	1,618人



2017年7月20日から30日までの11日間、ポーランド共和国・ヴロツワフ市で開催された第10回ワールドゲームズ。世界102の国・地域から3,214名のトップアスリートが集結し、熱戦が繰り広げられました。公式27競技、公開4競技が実施され、日本からは18競技に98名の選手が参加し、10競技で22個のメダル（金9・銀6・銅7）を獲得。2001年秋田県での第6回大会の25個（金9・銀6・銅10）に次いで、10大会中、2番目に多いメダル獲得数となりました。

各国参加選手数・メダル獲得数一覧

102の国や地域から、3,214人の選手が参加。63の国や地域がメダルを獲得しました。

順位	国名	参加選手	金	銀	銅	メダル計
1	ロシア	133	28	21	14	63
2	フランス	184	14	14	15	43
3	ドイツ	189	18	10	14	42
3	イタリア	121	16	13	13	42
5	ウクライナ	77	10	7	8	25
6	ベルギー	65	7	9	8	24
7	日本	98	9	6	7	22
7	アメリカ	190	6	11	5	22
9	コロンビア	50	9	10	2	21
10	中国	90	8	7	5	20
10	ポーランド	294	5	6	9	20
12	オーストラリア	118	3	5	6	14
12	ハンガリー	57	6	4	4	14
12	スペイン	72	3	4	7	14
12	スイス	89	3	8	3	14
16	韓国	42	3	6	3	12
17	ペラルーシ	22	4	2	5	11
17	イギリス	105	3	4	4	11
17	イラン	19	2	8	1	11
17	スウェーデン	53	4	2	5	11
21	タイ	22	3	5	2	10
22	ブラジル	72	4	2	2	8
22	台北	67	1	4	3	8
24	チェコ	65	2	1	4	7
25	アルゼンチン	43	3	1	2	6
25	カナダ	78	1	3	2	6
25	デンマーク	30	6			6
25	イスラエル	18		1	5	6
25	オランダ	81	2	2	2	6
25	スロベニア	16		4	2	6
25	ベネズエラ	19		3	3	6
32	オーストリア	45	2	1	2	5
32	メキシコ	21	1	1	3	5
34	チリ	26	1	1	2	4
34	トルコ	13	1		3	4
36	クロアチア	23		2	1	3
36	エジプト	25		2	1	3
36	フィンランド	32		1	2	3
36	カザフスタン	16	1		2	3
36	モンゴル	16	1	1	1	3
36	ボルトガル	21			3	3
36	アラブ首長国連邦	6	1	1	1	3
43	アゼルバイジャン	6	1	1		2
43	香港	9		1	1	2
43	モロッコ	15	1		1	2
43	ニュージーランド	38			2	2
43	ペルー	9	1		1	2
43	ルーマニア	20		1	1	2
49	アルジェリア	6	1			1
49	ドミニカ	3			1	1
49	ギリシア	12		1		1
49	ヨルダン	5		1		1

順位	国名	参加選手	金	銀	銅	メダル計
49	リトアニア	4			1	1
49	マレーシア	8			1	1
49	モンテネグロ	6			1	1
49	フィリピン	4	1			1
49	カタール	10			1	1
49	サンマリノ	2		1		1
49	セルビア	8	1			1
49	スロバキア	16			1	1
49	南アフリカ	26			1	1
49	ベトナム	6	1			1
49	モルドバ	8	1			1
—	ボスニアヘルツェゴビナ	2				0
—	ブルガリア	8				0
—	コスタリカ	1				0
—	コートジボワール	1				0
—	キプロス	1				0
—	エクアドル	13				0
—	エルサルバドル	1				0
—	エストニア	7				0
—	エチオピア	1				0
—	フィジー	1				0
—	ジョージア	4				0
—	グアテマラ	1				0
—	アイスランド	1				0
—	インド	4				0
—	インドネシア	1				0
—	イラク	1				0
—	アイルランド	23				0
—	キルギスタン	4				0
—	ラトビア	8				0
—	レバノン	2				0
—	マダガスカル	4				0
—	マルタ	4				0
—	モーリシャス	3				0
—	モナコ	2				0
—	ナミビア	2				0
—	ニカラグア	1				0
—	ノルウェー	26				0
—	パキスタン	3				0
—	プエルトリコ	2				0
—	サウジアラビア	1				0
—	セネガル	3				0
—	シンガポール	4				0
—	タジキスタン	1				0
—	チュニジア	14				0
—	トルクメニスタン	1				0
—	ウガンダ	2				0
—	ウルグアイ	12				0
—	ウズベキスタン	1				0
—	ヴァージン諸島	1				0
合計		3,214	199	199	199	597

出典：https://theworldgames2017.com/en/results/

大会総括

2017年7月20日～30日、10回目となる非オリンピック種目の国際総合競技大会「ワールドゲームズ」が、ポーランドのヴロツワフ (Wrocław) 市で開催されました。オリンピック・パラリンピック開催立候補都市が、大会経費の高騰により激減し、2024年・2028年大会の開催地を同時に決定するというかつてない状況に陥っている中、ワールドゲームズは開催都市に施設がない競技は開催しなくて良いという当初からの特色が功を奏し、第2回のロンドン大会を除いては、すべて地方都市で開催されてきました。オリンピック憲章に謳われている「世界中のすべての人々が一切の差別なくスポーツが楽しめる社会の実現」のためには、低予算での開催が可能で、毎回種目の入れ替えが行われているワールドゲームズのあり方は極めて有意義になってきています。今回も女子ラクロス、ムエタイ、フロアボールが新たに採用されました。

今回のヴロツワフ大会で、ヨーロッパでの開催は6回目となりますが、ワールドゲームズは①国際オリンピック委員会 (IOC) 「オリンピック・アジェンダ2020」提言6－1に「IOCとIWGAはスポーツプログラムの構成およびそれぞれの評価に関して緊密に協力する」と明記され、両者の連携の覚書が再締結されたこと、②2020年東京オリンピック追加5種目はすべてワールドゲームズ競技から採用されたこと、などにより一挙に関心が高まり、参加国数は過去最多

の102カ国・地域となり、テレビ放送をした国も131カ国に増えています。さらに、IOCはデジタルプラットフォーム「オリンピックチャンネル」で大会の模様を発信し、飛躍的に多くの視聴者を獲得しました。日本から観戦に訪れる人も増え、スポーツ庁からは鈴木大地長官とスタッフが大会を視察され、IWGA会長はじめ幹部役員と会談を行いました。大会前に岸記念体育会館で開催した日本選手壮行会にも鈴木大地長官はご出席くださり、日本オリンピック委員会 (JOC) 竹田恒和会長、日本体育協会泉正文副会長と共に参加選手を激励してくださいました。TBSテレビは今回もIWGAと放映権契約を結び、2005年の第7回大会から連続して大会の模様を報道しました。また、ワールドゲームズを後援しているIOCのバッハ会長は、恒例の開会式での挨拶だけでなく、多くのスタッフとともに大会前から現地に入り、IWGAと大会組織委員会との昼食会に参加したり、参加競技団体役員との朝食会を主催するなど、今まで以上に非オリンピック種目団体ともより密接な関係を構築しようとする姿勢が見られました。今回の大会は、IOCがオリンピックムーブメントとして、ワールドゲームズがより重要な大会になってきていることを示した大会でもありました。

改めて今回のワールドゲームズが示した「第2のオリンピック」としての意義を以下にまとめました。

① 夏季オリンピック競技大会を開催することが難しい都市でも、新しく施設を建設することさえなければオリンピックに準じる大会の開催は可能であることを実証した。

② 2020年東京オリンピックの追加5競技（空手、ローラースポーツ（スケートボード）、野球・ソフトボール、スポーツクライミング、サーフィン）は、全てIWGA加盟競技であり、今回実施された空手、スポーツクライミングは次回のオリンピック競技として関心を集めた。これで、IWGA加盟競技からオリンピック競技になった競技は、通算12競技となり、「オリンピック・アジェンダ2020」提言6－1が示すように、ワールドゲームズはオリンピックと連携する大会になってきている。

③ ワールドゲームズは、非オリンピック「種目」の大会であり、オリンピック「競技」の種目であってもオリンピックで採用されていない「種目」は、今回も下記のように実施された。

〈アーチェリー〉フィールドアーチェリー、〈カヌー〉カヌーボロ、〈体操〉エアロビクス、新体操種目別、アクロバット体操、トランポリンシンクロナイズド、タンブリング、〈ハンドボール〉ビーチハンドボール、〈ボート〉インドアローイング

④ IOCがIWGAと締結した覚書に基づき、ワールドゲームズはIOCが連携し後援する大会であることがより明確になり、スポーツ振興基金から今大会に出場する日本人選手に補助金が支給された他、JOC、日本体育協会、日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) などからの支援が得られた。

『オリンピック憲章』の根本原則には、「スポーツを行うことは人権の一つである。すべての個人はいかなる種類の差別もなく、オリンピック精神によりスポーツを行う機会を与えられなければならない」と“Sport for All”の推進を謳っています。それは、オリンピックムーブメントはIOCとIWGAの覚書に示されたように、単にオリンピックに採用された競技だけの普及をすることだけではないことを物語っています。

今後もワールドゲームズは、非五輪種目の大会としてオリンピッ

クを開催できない地方都市で開催され続けることにより、オリンピック競技大会と車の両輪としてオリンピックムーブメントを推進していくことが期待されています。

成熟社会の中で迎える2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催準備が、オリンピックムーブメントの正しい理解、普及につながり、オリンピックと兄弟関係で共に“Sport for All”を目指すワールドゲームズの価値や役割の認識が広まっていくことを期待したいと思います。

特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会

執行理事 師岡 文男

世界フライングディスク連盟 理事
日本フライングディスク協会 会長
国際ワールドゲームズ協会 前理事
国際スポーツ団体連合 元理事
上智大学 名誉教授



競技1～4日目

日本選手金メダル第1号は男子ボルダリング

7月20日、ヴロツワフ・スタジアムで行われた開会式に4万人の観衆が詰めかけ、大歓声のなか大会の幕が切って落とされた。

競技初日は、2020年東京オリンピックの追加競技となるスポーツクライミング（ボルダリング）とライフセービングが行われた。男子ボルダリングでは、緒方選手が初出場で見事金メダルを獲得し、今大会日本選手メダル第1号となった。続いて、女子ボルダリングでも、同じく初出場の野中選手が銀メダル。快調な滑り出しで日本選手団に勢いをつけた。ライフセービングの男子4×50m障害物リレーでは、世界記録を塗り替える1分36秒62をマークし、日本チームが頂点に輝いた。佐藤監督は、「ワールドゲームズ出場を目標に掲げ取り組んできましたが、初出場で金メダル、それも世界新記録での勝利に喜びでいっぱいです」と笑顔で振り返った。

続く競技2日目のエアロビック・トリオでは、金井選手、北爪選手、斉藤選手が、2位中国、3位フランスに大差をつけ優勝。相撲では、ワールドゲームズ3度目の出場となる太田選手が女子中量級で銀メダルを手にし、3大会連続でメダル獲得の快挙を成し遂げた。兄弟で出場した黒川宗一郎選手・宏次朗選手は、男子重量級の3位決定戦で対戦し、兄の宗一郎選手が銅メダルを勝ち取った。

競技3日目は、クライミングの男子リードで是永選手が金メダル、波田選手が銀メダルを獲得し、初日のボルダリングに続いて日本の競技レベルの高さを証明した。相撲は、前日に重量級で銅メダルを獲得した黒川宗一郎選手と三輪選手の日本選手同士が、男子無差別級の3位決定戦で対戦し、押し出しで三輪選手が銅メダルをつかんだ。相撲競技3個目のメダル獲得となり、日本の国技の迫力に観衆も大いに魅了された。

競技4日目、ワールドゲームズ4度目の出場となるパワーリフティングの福島選手は、女子ライトウエイトで銀メダルを手にし、通算4個目のメダル獲得の偉業を達成。体操のトランポリンでは、中園・石川ペアが男子シンクロナイズドで銅メダル。2009年の第8回大会以来2大会ぶりのメダルとなった。



男子リードで金メダルを獲得した是永選手
[写真提供：日本山岳・スポーツクライミング協会]



日本選手同士の対戦の末、三輪選手が銅メダルを獲得



大差で優勝したエアロビック・トリオ日本チーム。
左から金井選手、杉原コーチ、北爪選手、斉藤選手
[写真提供：日本エアロビック連盟]



開会式の様子。4万人の大観衆に見守られるなか、各国の選手団が入場

4大会連続メダル獲得のパワーリフティング福島選手



男子ライフセービング。4×50m障害物リレーで世界新記録で金メダルを獲得。
左から安藤選手、幡野選手、西山選手、平野選手
[写真提供：日本ライフセービング協会]

競技5～6日目

空手は日本選手全員がメダルを獲得

折り返しとなる競技5日目、注目の空手初日は、男子形の喜友名選手、女子形の清水選手ともに金メダル。清水選手はこの日、日本選手唯一のアスリート・オブ・ザ・デイ*を受賞した。初優勝を果たした喜友名選手は、「前回大会での悔しさをばねに稽古をしてきました。優勝できてとてもうれしいです」と喜びを語った。女子組手-50kgに出場した宮原選手は、決勝戦で惜しくも敗れ、銀メダル。アーチェリーの男子リカーブでは、ワールドゲームズ初出場の大貫選手が、準決勝で接戦の末アメリカに敗れたが、続く3位決定戦で勝利。銅メダルを獲得した。

空手2日目となった競技6日目、女子組手+68kgの植草選手は、前回大会に続き金メダルの快挙。さらに男子組手+84kgの香川選手がイランの選手に勝利し、金メダルを獲得した。前回大会金メダリストの染谷選手は、女子組手-68kg準決勝で敗れたものの3位決定戦で完勝し、銅メダルを手にした。同じく、前回大会金メダリストの荒賀選手は、決勝戦で惜しくも敗れ、銀メダルとなったが、「死に物狂いで練習をして、2020年の東京オリンピックでは金メダルを獲りたい」とオリンピック出場へ意欲を見せた。

*その日最も良いパフォーマンスを見せた選手に贈られる賞

初出場ながら銅メダルを獲得したアーチェリー大貫選手



全選手（7名）がメダルを獲得した空手チームをスポーツ庁鈴木長官が祝福

競技7～9日目

日本初となるメダル獲得競技が続々

競技7日目は、ウエイクボードの男子フリースタイルで、初出場の手塚選手が優勝。種目としては第6回大会以来、4大会ぶりの金メダルとなった。手塚選手は「金メダルを獲得できてとてもうれしい。これを通してウエイクボードをたくさんの人に知っていただきたい」と、ウエイクボード競技の発展に期待を寄せた。

競技8日目、柔術男子62kg寝技の倉岡選手が、3位決定戦でイスラエル選手を制し銅メダル。柔術でのメダル獲得は日本初となり、ワールドゲームズ初出場にして快挙を成し遂げた。

競技9日目のビリヤードでは、初出場の大井選手が、男子プールで銅メダル。ビリヤードでの日本初のメダル獲得となった。

最終日の閉会式では、次回開催地アメリカのバーミングハム市長にワールドゲームズ旗が手渡され、4年後の大会に向けバトンが引き継がれた。選手たちの活躍に胸を躍らせた多くの観衆がフィナーレを盛り上げ、11日間におよぶ大会の幕を閉じた。



ウエイクボードで4大会ぶりに金メダルを獲得した手塚選手



閉会式では、選手・役員・ボランティアなど数千人が集り、セレモニーに華をそえた



ビリヤードで日本初のメダルを獲得した大井選手



スポーツ庁 鈴木大地長官
ワールドゲームズ大会 現地視察

第10回ワールドゲームズ大会を初めて視察させていただきました。

今回の大会では、日本選手団は過去2番目に多いメダル22個（金9、銀6、銅7）を獲得するなど、代表選手の皆様、また、代表選手の育成・強化に多大なご尽力をいただいた指導者の方々や各競技団体関係者の皆様に対し、深く敬意を表します。

スポーツ庁としては、このようなオリンピック非実施競技を世の方々を知っていただくことが、私たちの目指す国民のスポーツ実施率の向上や、一億総スポーツ社会の実現につながるのではないかと思います。



大会のマスコットキャラクターと

しております。今後もさまざまな方が、それぞれのスポーツにますます邁進していただき、日本として幅広くスポーツ振興を図って参りたいと思っております。

日本選手メダル獲得一覧

日本選手は、金9、銀6、銅7の計22個のメダルを獲得。

前回大会を大きく上回る結果を残しました。

[前回大会：2013年：金5、銀1、銅4 計10個 公式競技のみ]

競技	種目	選手	
体操	エアロビック・トリオ	金井拓海 選手	金
		北爪凜々 選手	
		斉藤瑞己 選手	
空手	+84kg 組手	香川幸允 選手	金
		植草歩 選手	
		形	
空手	形	喜友名諒 選手	金
		清水希容 選手	
		安藤秀 選手	
ライフセービング	4 × 50m 障害物リレー	西山俊 選手	金
		幡野圭祐 選手	
		平野修也 選手	
スポーツクライミング	ボルダリング	緒方良行 選手	金
スポーツクライミング	リード	是永敬一郎 選手	金
水上スキー・ウエイクボード	フリースタイル	手塚翔太 選手	金
空手	- 84kg 組手	荒賀龍太郎 選手	銀
空手	- 50kg 組手	宮原美穂 選手	銀
パワーリフティング	ライトウエイト級	福島友佳子 選手	銀
スポーツクライミング	リード	波田悠貴 選手	銀
スポーツクライミング	ボルダリング	野中生萌 選手	銀
相撲	中量級	太田麻乃 選手	銀
アーチェリー	リカーブ	大貫渉 選手	銅
ビリヤード	プール	大井直幸 選手	銅
体操	トランポリンシンクロナイズド	中園貴登 選手	銅
		石川和 選手	
柔術	62kg 寝技	倉岡ジョンカルロス博 選手	銅
空手	- 68kg 組手	染谷香予 選手	銅
相撲	重量級	黒川宗一郎 選手	銅
相撲	無差別級	三輪隼斗 選手	銅

メダリストインタビュー

ヴロツワフ大会の日本選手金メダリストより、
ワールドゲームズや、東京オリンピックへの意気込みに
ついてのインタビューをご紹介します。(2017年8月インタビュー)



金

空手 女子形 金メダリスト
清水 希容 選手

1993年12月7日大阪府生まれ。ワールドゲームズ2017に初出場し、女子形で金メダルに輝く。
そのほか、2016年の世界空手道選手権オーストラリア・リンツ大会女子KATA優勝(2連覇)、同年第44回皇后杯全日本空手道選手権女子KATA優勝(4連覇)、2017年プレミアリーグロッテルダム女子KATAで優勝するなど、数々のタイトルを獲得。



Q. ワールドゲームズに初出場した感想をお聞かせください。

A. ワールドゲームズは大きな大会であったため、気持ちを入れて臨みました。普段の大会と環境が違い戸惑いもありましたが、それが刺激となり、挑戦できた大会となりました。日本の空手チームが健闘し、メダルを獲って帰れたことを大変誇りに思います。決勝戦は、自分としてはもっと出来る部分があったと思うので、2020年の東京オリンピックではさらに良い演武を見せられるように頑張ります。また、「アスリート・オブ・ザ・デイ」という大変光栄な賞を頂きました。賞に恥じぬよう、また次の高みを目指していきたいです。

Q. 空手の魅力とは？

A. 空手は組手と形があります。組手はダイナミックな技や試合運びが魅力です。寸止めで突きや蹴りを相手の顔や腹などに決め、採点方式で勝負が決まります。
わたしは形の選手ですが、形の難易度と、スピードやキレ、もともと決まっている形をどう表現するか、自分の良さをどれだけ見せられるかがポイントになります。簡単なようで難しい、奥の深い競技です。



Q. 2020年の東京オリンピックに向けての意気込みは？

A. 東京オリンピックまでの3年を、どのように取り組むかが大切になると思います。目標はもちろん優勝ですが、それ以上に良い演武をして、印象に残る選手を目指したいです。応援してくださる方には、生で空手を見ていただきたいと思います。組手の迫力や形の良さを肌で感じてもらえると思うので、ぜひ一度会場に足を運んでみてください。私も良い演武、良い結果を残して、皆さんに見ていただけるように頑張ります。



金

スポーツクライミング
男子ボルダリング 金メダリスト
緒方 良行 選手

1998年2月4日福岡県生まれ。小学5年生の時に、スポーツクライミングを始める。ワールドゲームズ2017に初出場し、男子ボルダリングで金メダルを獲得。他大会では、2017年IFSCクライミング・ワールドカップボルダリング ペイル3位、同年IFSC世界ユース選手権では、ボルダリング、リードで優勝するなど全種目で表彰台に立った。



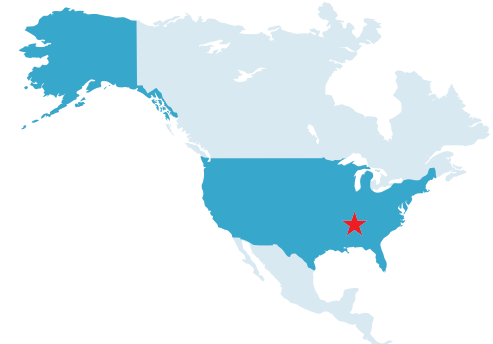
写真提供：日本山岳・スポーツクライミング協会

Q. ワールドゲームズに初出場した感想をお聞かせください。

A. ワールドゲームズは、4年に一度の貴重な大会という思いがあったので、優勝を目指して挑みました。世界大会で初めて優勝することができ、2020年の東京オリンピックへ弾みがつきました。スポーツクライミングは大会初日の競技だったので、メダルを獲って日本チームに勢いをつけたいと思っていました。
他の競技の日本選手も良い成績を収められたこ



The World Games



第11回 ワールドゲームズ バーミングハム大会

開催都市 アメリカ合衆国 バーミングハム

開催期間 2022. 7.7-7.17

実施予定競技

公式競技
※1

エアースポーツ
アーチェリー (フィールド)
ビリヤード
ブルスポーツ
ボウリング
カヌー (ボロ、マラソン)
ダンススポーツ
フィストボール
フロアボール
フライングディスク

体操
(アクロバット体操、
エアロビクス、パルクール、
新体操、トランポリン、
ダンプリング)
ハンドボール (ビーチ)
柔術
空手
キックボクシング
コーフボール
ラクロス女子
ライフセービング
ムエタイ

オリエンテーリング
パワーリフティング
ラケットボール
ローラースポーツ
野球 ソフトボール (ソフトボール女子)
スポーツクライミング
スカッシュ
相撲
綱引
水中スポーツ
水上スキー・ウエイクボード

公開競技
※2

車椅子ラグビー
武術
ラクロス男子
トライアスロン
(デュアスロン)
アメリカンフットボール
(フラグフットボール)



5
競技

(※1) 国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) の加盟競技 (39競技) の中から実施されます。

(※2) 国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) と開催都市で競技を決定します。開催都市の国・地域で盛んなスポーツや伝統的なスポーツが実施されます。



2025年 第12回ワールドゲームズ大会
開催都市決定
中華人民共和国・四川省成都市



IWGA (国際ワールドゲームズ協会) は、2019年5月9日、オーストラリア・ゴールドコーストで開催されたIWGA年次総会にて、2025年のワールドゲームズ (第12回大会) を中華人民共和国四川省の省都成都市 (Chengdu) で開催することを発表しました。アジア地域では、2001年の日本・秋田、2009年チャイニーズタイペイ・高雄に次いで3回目の開催となります。

バーミングハムの概要

バーミングハムは、アメリカ合衆国アラバマ州最大の都市で、アパラチア山脈の南端にあります。サンベルトと呼ばれる、緑豊かで美しい地域で、全米の「住みやすい都市ベスト10」にも選ばれたことがあります。また、アメリカ南東部における最も重要なビジネスセンターであり、同時にアメリカ最大の銀行業の中心地のひとつとして発展しています。

about Birmingham

- 人 口：21万人
- 面 積：393.5平方キロメートル
- 住 民：アフリカ系約73.5%、白人約24.0%、アジア系約0.8%、その他約1.7%
- 日本との時差：-14時間

JTBはワールドゲームズを応援しています



国内・海外遠征

長年のスポーツ団体の遠征手配の経験を活かし、円滑、スピーディー、且つ快適な遠征のお手伝いをいたします。

合宿 (国内・海外)

合宿場所のコンサルティング、移動・練習場所・食事のコーディネートまでご希望にお応えします。



(株) JTB スポーツマーケティング事業部 [営業時間] 9:30~17:30 土日祝休

TEL 03-5909-8090 URL www.jtb.co.jp/sports/

The World Games



特定非営利活動法人
日本ワールドゲームズ協会
Japan World Games Association (JWGA)



Japan World Games Association
(JWGA)

1985年に国内のワールドゲームズ関係競技団体などによって、日本ワールドゲームズ委員会が設立され、その後1991年12月に日本ワールドゲームズ協会（JWGA）に改組、IWGAの事業に参画、第6回ワールドゲームズの日本誘致を成功させました。2001年6月には、NPO法人の認証を受け、ワールドゲームズ運動とスポーツの振興を推進しています。

目的

ワールドゲームズの理念に則り、多種多様なスポーツを国民に普及・紹介し、スポーツ人口の増加を図り、選手の育成とそのレベルアップを図るとともに、スポーツを通じて我が国民はもとより、人類の健康増進と世界平和に寄与することを目的とします。

事業

目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行います。
① 国際ワールドゲームズ協会及び国際スポーツ団体連合の事業への参画
② ワールドゲームズに関する普及・啓発
③ ワールドゲームズ国内大会の開催
④ スポーツの国際交流の推進
⑤ 国際的なスポーツ問題の調査研究

会員（団体）			2021年9月現在	43団体【アルファベット順】
[正会員] 26団体				
公益財団法人合気会	公益社団法人全日本アーチェリー連盟	公益社団法人日本ビリヤード協会		
公益社団法人日本ボディビル・フィットネス連盟	公益財団法人全日本ボウリング協会	日本キャスティング協会		
公益社団法人日本ダンススポーツ連盟	一般社団法人日本フロアボール連盟	一般社団法人日本フライングディスク協会		
公益財団法人日本ハンドボール協会	一般社団法人全日本柔術連盟	公益財団法人全日本空手道連盟		
一般社団法人日本ラクロス協会	公益財団法人日本ライフセービング協会	公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会		
公益社団法人日本パタンク・プール連盟	公益社団法人日本パワーリフティング協会	一般社団法人ワールドスケートジャパン		
公益財団法人日本ソフトボール協会	公益社団法人日本スカッシュ協会	公益財団法人日本相撲連盟		
一般社団法人日本サーフィン連盟	一般社団法人日本水中スポーツ連盟	特定非営利活動法人日本水上スキー・ウエイクボード連盟		
公益社団法人日本武術太極拳連盟	公益財団法人笹川スポーツ財団			
[準会員] 13団体				
公益社団法人日本エアロビック連盟	公益社団法人日本アメリカンフットボール協会	日本アームレスリング連盟		
国際スポーツチャンバラ協会	公益社団法人日本ダーツ協会	一般社団法人日本ドラゴンボート協会		
公益財団法人日本ゲートボール連合	日本オーケータゴルフ協会	一般社団法人日本健康麻将協会		
一般社団法人全日本空道連盟	一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会	日本マウンテンバイク協会		
公益財団法人日本ソフトテニス連盟				
[支援会員] 4団体				
一般社団法人日本スポーツカイロプラクティック連盟	公益社団法人全日本フルコンタクト空手道連盟			
公益財団法人日本レクリエーション協会	東京スカイダイビングクラブ			

役員			任期：2020年7月1日～2022年6月30日（2年間）【五十音順】
会 長	赤木 恭平	公益財団法人日本オリンピック委員会 名誉委員	
副会長	渡邊 一利	公益財団法人笹川スポーツ財団 理事長	
執行理事	大塚 眞一郎	公益財団法人日本トライアスロン連合 専務理事	
		国際トライアスロン連合 副会長	
	師岡 文男	一般社団法人日本フライングディスク協会 会長 世界フライングディスク連盟 理事	
		国際ワールドゲームズ協会 前理事 国際スポーツ団体連合 元理事	
	吉澤 俊治	一般社団法人日本水中スポーツ連盟 専務理事	
		世界水中スポーツ連盟 理事	
	吉田 進	特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟 理事長	
理 事	川原 貴	公益社団法人日本スカッシュ協会 副会長	
	清宮 邦雄	一般社団法人ワールドスケートジャパン 副会長	
	栗原 茂夫	公益財団法人全日本空手道連盟 副会長	
	小林 伸輔	一般社団法人共同通信社 編集局オリンピック・パラリンピック室 室長	
	滝川 哲也	株式会社時事通信社編集委員東京五輪パラリンピック対策室 兼務	
	齋藤 良太郎	公益財団法人全日本ボウリング協会 専務理事	
	南 和文	公益財団法人日本相撲連盟 会長 国際相撲連盟 事務総長	
	宮城島 眞知子	公益社団法人日本スカッシュ協会 常務理事	
	森岡 裕策	公益財団法人日本スポーツ協会 常務理事	
監 事	寺尾 靖世	日本マウンテンバイク協会 理事・事務局長	
	川地 政夫	公益財団法人日本ライフセービング協会 事務局長	

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階 笹川スポーツ財団内 TEL:03-6229-5300 FAX:03-6229-5340 E-MAIL:info@jwga.jp <https://www.jwga.jp/>

The Japan World Games Commission established in 1985 by domestic world games related sports associations, etc. This was then reorganized into the Japan World Games Association (JWGA) in December 1991, and the invitation for the 6th World Games in Akita 2001 was successful. The association received non-profit organization (NPO) corporate status in June 2001 and continues to promote the World Games sports in Japan.

Purpose

JWGA works towards popularizing the various sports including the World Games sports for increasing the number of sports enthusiasts in accordance with the World Games philosophy in Japan such as training athletes, improving their skills as well as advancing the good health and contributing to the world peace through sports.

Activities

① Support the International World Games Association (IWGA) and SportAccord projects
② Education and popularization of the World Games
③ Organize the World Games related event
④ Promotion of international exchange projects of sports
⑤ Investigative research on international sports issues

Members		
[Full Member 26]		
Aikikai Foundation	All Japan Amateur Archery Federation	Nippon Billiard Association
Japan Bodybuilding & Fitness Federation	Japan Bowling Congress	Japan Casting Association
Japan Dance Sport Federation	Japan Floorball Federation	Japan Flying Disc Association
Japan Handball Association	Jiu-Jitsu Federation of Japan	Japan Karatedo Federation
Japan Lacrosse Association	Japan Lifesaving Association	Japan Mountaineering & Sport Climbing Association
Japan Petanque Boules Federation	Japan Powerlifting Association	World Skate Japan
Japan Softball Association	Japan Squash Association	Japan Sumo Federation
Nippon Surfing Association	Japan Underwater Sports Federation	Japan Waterski & Wakeboard Association
Japan Wushu Taijiquan Federation	Sasakawa Sports Foundation	
[Associate Member 13]		
Japan Aerobic Federation	Japan American Football Association	Japan Arm Wrestling Association
International Sports Chanbara Association	Japan Darts Association	Japan Dragon Boat Association
Japan Gateball Union	Japan OK Golf Association	Japan Kenko-Mahjong Association
Kudo All Japan Federation	Motorcycle Federation of Japan	Japan Mountain Bike Association
Japan Soft Tennis Association		

Board Members		
President	Kyohei AKAGI	Japanese Olympic Committee (Honorary Member)
Vice President	Kazutoshi WATANABE	Sasakawa Sports Foundation (President)
Executive Director	Shin OTSUKA	Japan Triathlon Union (Executive Director)
		International Triathlon Union (Vice President)
	Fumio MOROOKA	Japan Flying Disc Association (President) World Flying Disc Federation (Board Member)
		International World Games Association (Former Executive Committee Member)
	Shunji YOSHIZAWA	Japan Underwater Sports Federation (Secretary General)
		World Underwater Federation (Board of Director)
	Susumu YOSHIDA	Japan Para Powerlifting Federation (President)
Director	Takashi KAWAHARA,MD	Japan Squash Association (Vice President)
	Kunio KIYOMIYA	World Skate Japan (Vice President)
	Shigeo KURIHARA	Japan Karatedo Federation (Vice President)
	Shinsuke KOBAYASHI	Kyodo News (Olympic and Paralympic News Office Director)
	Tetsuya TAKIGAWA	JIJI PRESS / Editorial Writer (Olympic and Paralympic News Office)
	Ryotaro SAITOH	Japan Bowling Congress (Executive Director)
	Kazufumi MINAMI	Japan Sumo Federation (President)
		International Sumo Federation (Secretary General)
	Machiko MIYAGISHIMA	Japan Squash Association (Managing Director)
Inspector	Yasuyo TERAOKA	Japan Sport Association (Managing Director)
	Masao Kawachi	Japan Mountain Bicycle Association (Director)
		Japan Lifesaving Association (Secretary General)

Japan World Games Association (JWGA) C/O Sasakawa Sports Foundation
The Nippon Zaidan Building 3F,1-2-2 Akasaka,Minato-ku Tokyo 107-0052, Japan TEL:+81-3-6229-5300 Fax.:+81-3-6229-5340 E-Mail:info@jwga.jp <https://www.jwga.jp/>



<https://www.jwga.jp/>

